

書籍紹介

『障害者権利条約とやどかりの里』 やどかりの里 45 周年記念出版編集委員会 編 やどかり出版 2015 年

精神障害のある人の「ごく当たり前の生活」を求めて、1970 年にさいたま市(旧大宮市)で活動を始めた「やどかりの里」は、街中に障害者生活支援センターやグループホーム、働く場を点在させ活動の輪を広げてきた。2015 年 3 月末で 356 人のメンバーがやどかりの里の活動を利用し、支援する人は 300 人を超えている。

本書は、社会福祉実践の 45 年の節目に、2010～2014 年までのやどかりの里の実践を、障害者権利条約(2006 年国連で成立、2014 年 1 月日本批准)に照らし合わせて点検し、今後の課題や方向性を示す。権利条約を絵に描いた餅とせず、実践に引き付けて考えていく試みとして、全国の人たちとともに社会福祉実践の質を高め合うための 1 冊になるようにと願って企画された。実践を積み上げてきた人たちの等身大の言葉、率直な思いが語られる。

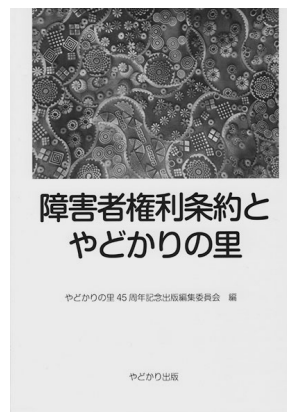
●主な目次

I. 総論

障害者権利条約とやどかりの里

II. 検証 障害者権利条約と実践現場

障害者権利条約と社会的入院



障害者権利条約と相談支援

障害者権利条約と労働支援

障害者権利条約とディーセントワーク

障害者権利条約と文化活動

障害者権利条約と高齢障害者

III. 私たち抜きに私たちのことを決めないで

座談会 1 人 1 人が主人公

座談会 家族の思い やどかりの里への期待

IV. やどかりの里の 5 年の歩み

権利条約とやどかりの里の 5 年間